

第2回総合振興計画審議会【概要】

◇開催日時及び場所

日時：平成28年8月4日 午後6時～午後8時30分

場所：湯沢市役所2階 21・22会議室

◇出席者（敬称略）

（出席）

高嶋 伸夫（ゆざわ小町商工会）、井上 善蔵（こまち農業協同組合）、伊藤 明美（湯沢市観光物産協会）、住谷 達（湯沢青年会議所）、佐藤 政弘（湯沢市雄勝郡医師会）、中山 孝子（湯沢市社会福祉協議会）、前田 貞一（湯沢市体育協会）、柴田 武彦（湯沢地区自治協議会）、高山 重雄（湯沢7地区自治連絡協議会）、戸部 緑（雄勝野づくり連絡協議会）、寺門 敏子（NPO 株式会社センタービーイング）、竹下 有紀子（クラウドワーカー）

（欠席）

松田 悦子（湯沢商工会議所）、遠藤 幸作（稲川地域自治連絡協議会）、築瀬 栄美子（（合）トマトクリエイション）

1. 開会
2. 委員交代の報告
3. 任命書交付（第1回欠席者）
4. 諮問
5. 市長あいさつ

委員の皆様には、ご多忙のところ審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日ごろから各分野において市政へのご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

昨年度は湯沢市人口ビジョンにより将来の人口目標を定め、それを実現するためのスタートダッシュの施策を総合戦略としてまとめておりますが、ご審議いただく第2期総合振興計画につきましては、総合戦略も包括した、来年度からの市全体の指針となる重要な計画となります。

人口減少の中にあって湯沢市をどう繋げていくか、それぞれの立場と観点から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

年度内は大変ご苦勞をお掛けいたしますが、よろしく願いいたします。

6. 会長あいさつ

お集まりいただきまして、ありがとうございます。

市長からも話がありましたが、人口減少と高齢化社会に対しどのように取り組んでいくかということで、商工会でも事業者の高齢化と後継ぎの問題で商工会を存続させるにはどうすればいいか、向こう10年のアクションプランを作るとしている。

市内のいろいろな団体でも同じ問題を抱えていると思うので、実りよい審議をして、いい形をつくりたい。

7. 説明事項

事務局より、現計画（後期計画）の指標達成状況及び総合振興計画イメージについて、資料に基づき説明、内容の質疑を行いました。

〈主な内容は次のとおり〉

（会長）

計画のイメージということで案の手前という位置づけですが、具体的な部分もありますので、追加や修正など、何でも結構ですので意見をお願いしたい。

（委員）

2060年までの人口推計が出ているが、人口がスキー場のように下がっていく見込みとあっていて、本当に大変だと改めて思った。何回も説明を受けているが、量から質へということで、量は少なくなっても質、満足感を感じる方向で狙って行かないといけない。

ちょうど夏休み中だが、子供たちの夏休みの過ごし方が非常に大事であり、働いている親にとっては学童保育などをやっていただけて非常に助かっていると聞いている。こういうのが活きた施策であり、将来の為に若い母親と子供を守って欲しいと思う。

また、結婚していない人が多くてもったいないと思うが、全国的に結婚コーディネーターのようなことをやっている自治体はあるものか。例えば、市の職員で採用して、基本給と成功報酬や出来高払いにすれば一生懸命やるのではないか。

（事務局）

しばらく前では、農業後継者を対象として農業委員会で任命してやっていたことがあるが、結婚に関しては個人のプライバシーということで、今は無くなっている。

今は、出会いの場を作るといような事業は、市からそういった活動をしている団体に委託して行っているが、職員を置いて直接AさんとBさんを結びつけるといった仲人のような事業は例がないと思われる。

(委員)

腕に覚えがある人もいるかもしれないので、よかったら検討してもらいたい。

市役所が新しくなり、ロビーで高校生が勉強している姿を素晴らしいと思って見ている。活きた使われ方をしており、隠れた大ヒットである。あの姿を見ると希望を感じる。

ロビーでの勉強もそうだが、6世帯に1世帯が貧困家庭であると言われていた中、経済的な理由で勉強を断念しなければいけないのは損失であるので、勉強を続けられるようにしてもらいたい。

また、一旦出て行っても湯沢に帰ってきてほしいということで、U(湯、you)ターンを提唱したい。Aターンで秋田に戻ってと言った場合、どうしても秋田市が突出してしまうので、湯沢に帰るようしつこく呼びかけて欲しい。

前回も言ったが、東京も万全ではない。

(会長)

基本構想の中の基本理念について、この形で進めていっていいか確認したい。

(委員)

第1章については、落ち着いた内容ですし、このままで良いのではないかと。

(委員)

2番目で「Yuzawa」とローマ字にしているのは、意図があってやっていることか。

(事務局)

まち・ひと・しごと総合戦略で使用した表現を使っている。大きな意味はありませんが、印象に残るよう横文字にしている。

(委員)

世界に向けて湯沢を売り出すということで「Yuzawa」としている訳ではないのか。

(事務局)

国内だけでなく海外にという思いはあるが、そこまで意図したものではない。

(委員)

基本理念について、暮らしの「質」の前に「豊かさ」の方が身近と思うがどうか。

(委員)

質感とか存在感という言葉がびんどこない。一般市民に理解してもらうのに、固すぎると思う。

(会長)

お二方からありましたが、文言についてどうでしょうか。

(委員)

大勢に違いはないと思うので、事務局に考えてもらってはどうか。

存在感はなくて、誇れるまちだけでもいいかもしれない。

(委員)

満足感とすれば分かりやすいのでは。質がいいということは、満足するということではないか。

(委員)

満足感はひとそれぞれ、心の問題だと思う。

(市長)

行政もいろいろな事業をやっているが、なかなか文章で書いた通りに良くはならない。総花的でなく、絞って集中的にやるというのにも必要になる。

求める結果としては、市の将来性があるって人口が増えるということ、特に若い人が増えるということだが、そのためには結婚も仕事もというように繋がっているの、いろいろな立場で遠慮なく意見いただきたい。

(会長)

私個人の考えですが、暮らしの質感とか存在感はなくてもいいと考えている。その後の目標とか中身にも入っている内容と思うので、そこまで詳しく文章化しなくてもいいと思う。

お聞きしたいが、計画を立てた後に具体的な施策を実行することになると思うが、その検証について市民団体との会議の場で取り上げられているのか。答申した後は市に任せっぱなしでなく、どこまで行ったとか、どれだけの成果があったとか、自分たちが思ったように進んでいるのか知りたい。そういった場があれば、協力できる場所もあるだろうし、理解も深まると思う。

(事務局)

それぞれの個別の分野の中ではあったが、全体の年度進捗や成果はこれだけ達成しましたという場は無かった。ただし、昨年つくった総合戦略については、毎年度報告するような仕組みになっている。

(会長)

今出ている施策の大綱もいいと思うが、実現するためには、そういったことがあった方が、中身の濃いことができるのではないかと思った。

(事務局)

大切な部分ですので、進捗管理と公表について確保していきたい。

(委員)

基本理念について、前の計画の基本理念の方が分かりやすいと思う。
あえて変えずに継続してもいいかと思うが。

(事務局)

理念は基本的には変わっていませんが、前の方がいいとすれば、改めさせていただきます。

(委員)

坂道を転がるような人口減少の予測だが、統計局の推計と市の希望的観測では2040年で3,200人、2060年で7,100人の頑張りましょうという目標があるが、できるのか。

順調に行けば政府のとおりになるのだろうが、逆らってやるからには、ありきたりの方法ではダメだということを念頭に置き、余程の決意を持ってやらなければいけない。

(委員)

最大の問題は人口減少。高齢化は年と共に解消するかもしれないが、少子化の問題はそうではない。総花的に全部できれば子どもも増えますよという話かもしれないが、ワンポイントで子どもが増やすということをアピールする部分がどこかにあってもいいと思う。

(委員)

2040年の生産年齢人口と老年人口がほぼ同数であり、生産年齢人口の負担がこの時にすごく増えるだろうが、今の所得でその負担はできないと思う。生産年齢人口、若い世代の所得をいかに増やすかという施策が必要と思うが、いまの内容だと所得が増えるイ

メッセージがつかない。

結婚しないというのも、所得が低くてしたくてもできない人がいると思うので、所得をしっかりと上げていく施策を皆で考えていかなければならない。

JCの中では、今後一番成長する可能性がある分野は観光産業と位置づけている。受け入れたお客さんにどうやってお金を落としてもらうか、特にインバウンドで海外からどう呼び寄せるかという視点が大切。なので、Yuzawaというローマ字を使っているのも、そういった意味があるのかと思ったのだが、イメージだけというのがすごく残念だった。そういったところも考えて、施策をつくっていただければと感じている。

(会長)

まとめていくのは大変だが、行政としては子育てとか結婚だけとかでなく、いろんな人が住んで生活していくということがあるので、答申するものはこのような形になる。

その後、市長にリーダーシップを発揮してもらい、行政でどれを重点的にやることで市が良くなり将来のためになるかという流れではないか。

(事務局)

人口減少対策に特化してということについては、まちひとしごと総合戦略で人口減少抑制に着目して取り組む4つの戦略を示しており、それが基軸になるものと考えている。

総合振興計画となると、行政の守備範囲をオールラウンドに捉えるということになり、総花的になる傾向があるが、その中でも重点のところをどう見せるか、メリハリをどう表すかを検討していきたい。

(会長)

将来的に人を増やす、子どもを増やすということが大前提で、そのために何をするかということだが、一概にこれだというものではなく、市に即した一番いいものをやらなければいけない。

(市長)

やっぱり所得が低くて、全国の中で低い秋田県の中で県南が更に低い。平均で20万円位低いのが、所得をどうやって上げていくか。大企業を連れてくるのも難しいし、地場産業で上げられるかと言っても事業者の方も苦しい。

経済力があれば今はそんなに不便でもないのだが、皆の所得を上げていくのは大変なこと。

(会長)

基本理念から順序立てていくのを変えて、子どもや若い人を増やすといったものに絞

って出すとかもありますが、それだけで行政がやっていける訳もないので、案に沿って検討してもらわないと進んでいかないと考える。具体的なところについては、市長を先頭にして、市側でどうやっていくかを私たちが見極めていくということでないか。

(委員)

全部変えようということではなくて、この中に光るワンポイントを追加できないかということですか。

(委員)

意見も出たので、第1章の部分については事務局に任せるということにして進めてはどうか。

(会長)

それでは、施策の内容について進みたいと思います。
こういった文言を取り入れて欲しいとか、意見をいただきたい。

(委員)

子育てや人口減少に関わる部分ですが、たとえ仕事が無くても、子育てするならば日本で湯沢市が一番いい、湯沢で暮らせばこれだけメリットがあるということが欲しい。日本一の結婚祝金だとか、住宅も増やしてもらえりし、医療費は高校生まで無料だとか、徹底的に日本で一番いい、住むなら湯沢市だというくらいのことをしないと絶対に増えない。何かピンポイントでやっていけば、湯沢市は素晴らしいところだと思える。メリハリがないとだめで、このままだと順調に減っていくだけ。

(委員)

山形県では保育料無料というところがあるが、それぐらいはっきりしたものがあれば、子どもを産んでも育てやすいと分かりやすいのではないかと。もちろん、保育料が無料になることで保育士の給料が少ないのは困る。

(事務局)

他の事例ですと、子どもが生まれた時や入学した時などの節目に、周りが一緒に祝ってあげたりする習慣のある地域では子どもが増えている事実がある。必ずしもお金を掛けるだけが子どもを増やす施策ではないと考えられますが、保育料や医療費などの優遇施策の要望も多いことから、なるべく子育ての方へお金を振り向けるよう検討させていただくべきということで報告したい。

(委員)

モデル事業なども補助金があるうちはいいけれども、補助金が無くなって数年たてば事業も無くなってしまう。補助金に頼った事業の効果がどれぐらいあるのか疑問である。

(事務局)

保育については、少子化が進む中で保育所が余ってくるのが想定されるので、保育所を増やすということには踏み込めないでいる。

安い金額で子どもを預けあえるような、子育ての共助の仕組みによって産み育てられる環境を作りたいと考えているので、そういったところも含めていろいろな提案をしていただきたい。

(会長)

いろいろな意見を出していただき、ありがとうございました。

時間も迫っているので、資料について次回の会合までに検討していただき、こういった内容を入れた方がいいのではないかな等をまとめ、発表してもらおうということにしたいと思いますがどうでしょうか。

また、施策についての具体的な意見が多くなっていますが、答申としてはそこまで必要ないと思いますので、その辺を了承いただきたい。

今日のところは、この位で終了したいと思います。

次回の日程などについて、事務局からありますか。

(事務局)

次回については、もっとしっかりした案を作ってからお願いしたいと考えております。今回も途中という状態ですので、少し時間を掛けて検討いただき、お気づきの点を書いていただいて返送いただくような形でお願いしたい。資料や返信封筒等は改めて送らせていただく。

(会長)

では、今日の資料を元に事務局へ前もって意見を出していただき、次回に発表してもらおうような形で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

平成19年に作った計画の時からすると、審議会が非常に簡素化しており、前回は代表25名で11回開催しているところ、今回は5回位の予定とされている。

また、平成23年の後期計画の答申の中で、審議過程における意見の反映や市民との

協働に取り組むこととまとめられているように、市長をはじめ部課長に聞いていただいて、計画書を作成するだけでなく行政運営に役立ててもらっている。5年前も部課長が出席して答えや内容を出していただいているが、今回は回数も少ないし、出席も企画課のみで行われている。委員も責任感を持って出席していると思うので、可能な限り考慮していただいて、審議会の存在感を高めていただけるようお願いする。

(会長)

中身の濃い審議ができるという点で、今の意見に賛成する。いい意見もあると思うので、担当の部長に聞いていただいて参考にしてもらおうということがあった方がいい形になると思う。事務局で検討してもらえるか。

(委員)

会の代表で来ているので、個人ではなく会の意見を聞いて代弁するものと思っている。持ち帰って意見を聞いてまとめることを考えているが、資料は公開してよいか。

(事務局)

問題ありません。

(委員)

11回が正しいかどうかは疑問で、多すぎると思う。合併して最初だから多かったということであって、2回目もそうだということではない。5回でいいかは別問題。

また、持ち帰ってということだが、私は説明・報告はするが、そこまではしない。その組織で考える問題だと思う。

(会長)

意見については、今後の審議会で取り入れて、いい形で進めるようにしたいと思いますので、よろしくご理解をお願いします。

他にご意見なければ、本日の審議회를終了します。

ありがとうございました。